

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670900150
法人名	医療法人 慈和会
事業所名	大口病院 グループホームつどい
訪問調査日	平成21年3月19日
評価確定日	平成21年5月8日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2009年3月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4670900150		
法人名	医療法人 慈和会		
事業所名	大口病院 グループホームつどい		
所在地	鹿児島県伊佐市大口大田124-3 (電話) 0995-23-0820		
評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま		
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号		
訪問調査日	平成21年3月19日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(21年 2月 28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 5人 非常勤 1人 常勤換算	5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	2,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	150 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 28日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 88 歳	最低 80 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	大口病院 県立北薩病院 こうき歯科医院		
---------	---------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは国道沿いの母体病院を中心にした社会福祉法人を含む関連施設の広い敷地内の一角にある。最近、身体的に衰退気味の利用者の安全を考えホームの玄関をバリアフリーに、ベランダをウッドデッキに改装した。また、隣にパン工房もでき、常時、いい香りに包まれている。責任者(計画担当者)・職員の思いのこもった方言入りの理念を胸に、全員が資格を持ったプロとして誇りと喜びを持って働いている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「運営推進会議の家族参加や議題についての取り組み」は、家族の参加もあり、外部評価の改善点を議題にし、話し合いされ、改善されている。「介護計画の見直し」「栄養摂取や水分確保の支援」についても見やすい、分かりやすい記録に改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価は全員で行い、ケアの振り返りの機会になっている。外部評価の結果はミーティング、運営推進会議で報告し、改善に取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	伊佐市職員、地区代表、家族、利用者、他多数の参加を得て定期的に開催されている。外部評価の結果を報告し、地域との交流について話し合い、公民会長、民生委員の働きかけにより地区の運動会、敬老会への参加、ボランティアの協力が増え、サービス向上に活かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	手紙を書いたり、面会時や家族会などで意見をもらえる雰囲気作りに心がけている。意見はミーティングやカンファレンスで取り上げ、運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	公民会長の支援をもらって地域の運動会、敬老会、ふれあい交流に参加している。民生委員の働きかけでボランティアのホーム訪問が増加し、踊り、歌、紙芝居、体操(月1回)を楽しんでいる。精神保健士、作業療法士学生の研修も受け入れている。保育園に利用者が作った雑巾を寄贈したり、野菜を届けたり、買い物・散歩の際、挨拶を交わしたり交流できている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念の中に方言を取り入れ、住み慣れた地域で安心した生活、地域の中でその人らしく生活できることを強調したものをづくりあげている。職員の思いがこめられた理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	リビングや職員室に掲示、常に目に入り、認識できるようにしている。ミーティングや申し送り時に再度確認し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の公民会長に月2回は市報など地域の情報紙を届けてもらっている。地区の運動会、ふれあい交流、敬老会など参加している。ボランティアのホーム訪問で紙芝居、歌、体操、ビューティサロン、マッサージ、化粧など楽しんでいる。保育園に利用者手づくりの雑巾を寄贈したり、ホームの菜園で取れた野菜を近隣に提供したり、交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で行ない、ケアの振り返りの機会にもなっている。外部評価の結果はミーティングや運営推進会議でも報告、意見を出し合い実践できるようにしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	伊佐市職員、包括支援センター、家族、利用者、地区民生員大口事務長、公民館長、第三者評価委員の参加を得て、定期的に開催している。外部評価の結果を報告し、地域との交流について話し合い、民生委員からの呼びかけでボランティアの協力が増加、また、公民館長の働きかけで地区の敬老会、運動会への参加が実現し、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成19年に連絡協議会(伊佐市地域密着サービス事業)を立ち上げ、2ヵ月に1回開催し、市の職員も加わり、各ホームの実状やサービスの取り組み、空き情報などを話し合っている。年1回グループワークなど研修の機会をもうけている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	各利用者別の家族ノートをつくり、利用者の日常を記載し面会時に見てもらいサインおよびコメントを書いている。また、「つどい便り」や電話などでも報告している。金銭管理は出納帳に記入し、家族の訪問の際、見てもらいサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙を書いたり、訪問や家族会などで意見をもらえる雰囲気作りに心がけている。家族会の出席率も高く、意見はミーティングやカンファレンスでとりあげ、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員異動は原則行わないが、やむを得ず離職の時は自然な引継ぎ期間をもうけている。新職員は面会時や家族会などで紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修報告は送り、ミーティング時に行い全職員が共有できている。資格取得の支援も行なって職員全員が有資格者である。採用時は母体法人で1ヵ月の研修をしている。救命処置(心肺蘇生法とAED)の研修もされている。	○	職員数にゆとりをもたせ、段階に応じた研修が受講できる体制づくりが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	伊佐地区・始良地区の連絡協議会に加入している。職員の研修・講演会・事例検討会などの交流ができてい。職員だけの意見交換の場も開いている。また、利用者同士のふれあいの場として他のホーム見学も実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居にあたっては本人・家族に見学してもらい、他の利用者どう対応できるか話し合い、理解してもらってから同意をもらっている。利用者に対して担当職員が寄り添い声かけしながら安心感を与え、ホームに早くなじんでもらえるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩であるという尊厳の心を持って接している。生活の知恵・文化の大事さを教えてもらうこともあり、味噌づくりや蕎麦うちなどを一緒にし支え合う関係を築いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で声かけて言葉や表情などから把握し、確認している。言葉や行動を「介護個人記録」・「家族ノート」に記録し、記録をもとに家族・職員が話し合い利用者の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族の意見、担当職員の気づきをもとに他の職員とも話し合い、利用者がその人らしく生活できるよう、介護計画を作成している。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の変化や職員の情報をもとに介護計画を評価し、3ヵ月に1回または変化があった場合はその都度見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設のデイケアとの交流会を週1回行い、また病院受診や送迎、入院している家族のお見舞いを計画支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、通院、訪問診療など本人及び家族の希望するかかりつけ医で受けている。歯科治療もかかりつけ医にて週1回、往診治療ができています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の対応指針は母体法人で契約時に同意をもらっている。現在は状態が悪くなれば入院となっているが、今後は、本人や家族・母体病院の医師・看護師と連携を取り、看取りまでケアができる体制を整備中である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように留意している。ミーティングなどで日々の関わりを見直している。「つどい便り」に掲載する写真も家族より同意書を貰っている。採用時に個人情報保護に関する誓約書もとっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム一日の流れはあるが利用者、その人に合った自然体の関わりを重視している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体法人の作業所の菜園で採れた野菜や卵を食材に取り入れ職員、利用者一緒に調理し食事を楽しんでいる。		
23	57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	冬場は週2回、夏場は週3回入浴を楽しんでいる。汚したり、希望時は随時、対応している。状態によりシャワー浴も清拭も実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	雑巾縫い、味噌づくり、漬物、梅干づくりなど利用者の趣味や特技を発揮できるようにしている。花見・紅葉狩りに出かけたり、また、身内の病気見舞いに行ったり、ホーム内ではパズル・読書・トランプ・カルタとりなど気晴らしの支援をしている。		
25	61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や同じ敷地内の施設に遊びに行ったり、また、喫茶店やコンビニ・商店で買い物を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○ 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関など鍵はかけていない。見守りを重視し外出の際はさりげなく声かけし、一緒について行っている。周辺の施設や日頃買い物に行く商店にも、万一来て備えて声かけし、協力を貰っている。		
27	71	○ 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方などを母体法人・ホーム独自と2回実施している。法人内の施設間において、連絡網や連携の手順が確立している。周囲の施設など職員が常駐している環境である。	○	敷地内に病院を始め関連の施設が多数あるが、ホーム独自に夜間想定を含めた夜間の災害訓練実施を早期に望みたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を毎日チェックしている。食事内容を写真入りメニューとして記録し、後々の行事食の参考にしている。朝食は水分補給・便通を良くする為に粥食にしている。食事形態も考慮し、栄養バランスは管理栄養士のアドバイスを受け支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングホールには空気清浄機も設置され、パズルや本など好きな時に利用できるように、また、共有の仏壇も置いてある。ベランダをウッドデッキに改装、日光浴や外の景色が楽しめるようになっている。玄関の一部をバリアフリーにして車椅子、シルバーカー利用者の安全を考慮し居心地よく過ごせるよう改良している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との写真や利用者の好きなもの、なじみのものを持ち込み居心地よく過ごせるよう、支援している。		